

県内高校生 プログラムの出来競う

# 発想豊か ごみ分別装置も

ランブが複数付いた小さなコンピュータ「マイクロビット」を活用したアイデアやプログラムの出来栄を競う「県高校生マイクロビットコンテスト」で、4個人5団体が入賞した。14日に秋田市の県第2庁舎で表彰式が開かれ、それぞれ表彰状が贈られた。



コンテストで最優秀賞に輝いた(右から)杉本さん、寺田さん、中嶋さん

## 県教委 コンテスト

コンテストは、プログラミングやデータ分析を学ぶ「情報1」が2023年度

## 大曲工など9個人・団体入賞

## 秋田市で表彰式

高校の必修科目に加わり、マイクロビットを全ての県立高校で導入したこと

から、学習成果を共有し情報処理能力の向上につなげようと県教育委員会が初めて開催した。身の回りの課題を解決するプログラムを募集し、69作品の応募があった。県立大教授らが実現性や完成度などの観点から審査した。

他の機器も組み合わせた難易度の高いプログラムを対象としたエキスポ部門は、大曲工業高の寺田佑人さん(2年)ら5人のチームが最優秀賞に輝いた。

製作したのは、マイクロビットと画像認識ができる学習型AI(人工知能)を組み合わせ、ペットボトルや缶などのごみを自動で分別できる装置。中嶋聖矢さん(1年)がプログラミン

グを主導し、寺田さんらはロボット製作を担当した。ごみの形状をAIに繰り返し覚えさせることで精度を

高めたという。活用法の発想力を競うアイデア部門は、秋田中央高の杉本惟愛さん(3年)が最優秀賞に選ばれた。登校時に自転車の鍵を抜き忘れてしまった経験に基づき、施錠を忘れたらマイクロビットの光で知らせるアイデアを考案した。

このほか、スタンダード部門では、二度寝を防ぐためのアラームを考案した花輪高の餅田夏生さん(2年)が最優秀賞を獲得した。

コンテストへの関心を深める機会になった。杉本さんは「文系で進学するが、プログラミングはどの分野も必要な知識。自分のアイデアがいつか誰かの役に立つてほしい」、寺田さんは「人の仕事の負担を減らすため、機械をどう活用するか考え、行動に移すことを学んだ。今後の製作にも生かしたい」と話した。

(清水美沙)